

福岡県環境総合基本計画（平成15年3月）  
概要版・抜粋

## <福岡県の環境の5本の柱ごとのめざす姿>

福岡県の環境をかたちづくる5本の柱ごとに、それぞれめざす姿（ビジョン）を次のように描いています。

### (1) 「自然環境の保全と創造」に関するビジョン

- 筑前・豊前・有明の3つの海に注ぎ込む川の流域ごとにすぐれた自然環境が広がり、都市地域でも緑地や水辺が確保されています。
- 数多くの身近な自然とのふれあいの場や機会に恵まれています。
- 農地や里山など、さまざまな自然との関わりを通して、自然環境と共生した事業活動や生活が定着しています。

### (2) 「生活環境の保全」に関するビジョン

- 水循環の確保をとおして、きれいで豊かな水と多様な生態系が各地で維持されています。
- さわやかな空気、きれいでおいしい水、安らぎの音環境など私たちの日常生活を取り巻く環境が、県民みんなの取組により安心して心地よい状態に保たれています。

### (3) 「循環型社会の形成」に関するビジョン

- ものを大切に、資源を効率的に利用して廃棄物を減らす社会づくりが進んでいます。
- 2つのエコタウン地域を中心に、環境産業が新たな産業として発展し、廃棄物等のリサイクル・有効利用の仕組みができています。
- 不法投棄がなく、県民が安心できる適正な処理が行われています。

### (4) 「地球環境問題への取組」に関するビジョン

- 便利さと活力を保ちながら、日常生活や経済活動から排出される二酸化炭素等を少なくする仕組みが定着しています。
- 国際機関やNPOなどと連携して、本県に蓄積された環境技術などが、アジア・太平洋地域の国々のために役立っています。

### (5) 「各主体の自主的な環境保全の取組とネットワーク化」に関するビジョン

- 環境について正しく学び、みんなが、自らの日々の行動が環境にさまざまな影響を与えていることに気付き、心づかいを持って行動しています。
- さまざまな環境活動の輪が県内各地に広がり、快適な環境づくりが進められています。

## ＜みんなをめざす10年後の福岡県の環境＞

10年後（2012年頃）の福岡県に時間旅行をして「この基本計画でめざす10年後の福岡県の姿」を、ある家族の生活を通して見てみましょう。

私は、10年後の福岡県のあるまちに住んでいる37歳の会社員です。36歳の妻、10歳の長女（小学校4年生）、7歳の長男（小学校2年生）、66歳の父、60歳の母と2世帯対応型の集合住宅で暮らしています。



私 妻と長女 母 父

2003年の私の家族



私 妻と長女 母と長男 父

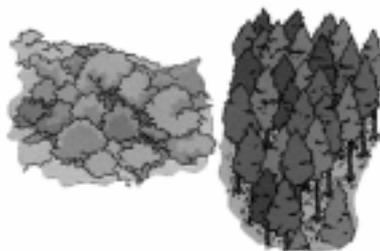
2012年の私の家族

### (1) 「自然環境の保全と創造」

がみんなの力でわかれている / 10年後にめざす自然環境の姿

○2012年頃の初夏、私は中国での静脈物流システムづくりの共同事業の打合せを終えて、飛行機で空港に降り立とうとしている。空から見えるふくおかのまちは、人と自然が隣り合い、深く関わり合って住むまちなんだなと改めて実感する。

○山々を見ると、よく手入れされたスギ・ヒノキの人工林や広葉樹の森林が広がっている。以前は、手入れが追いつかずに荒れていた山もあったが、今では充実した森林組合やボランティア組織の手で、ほとんどの山で十分な管理や植林がなされている。木々に湿っていて、山あいの水田に青々とした稲が伸びている姿も見える。山々が、こんなふうに元気だと、水源地としての働きも十二分に期待できるというものだ。



○家に帰った私は、父母が近所の貸し農園で作った野菜をかじりながら、子ども達からそれぞれ学校の自然観察キャンプに行った話を聞いた。7歳の長男は、博多湾の干潟でたくさんの野鳥を見たと興奮して話した。10歳の長女は、平尾台の草原に行き、きれいなチョウを見たとはしゃいでいた。さっそくインターネットで調べてみると、そのチョウは、10年前には絶滅しかかったようだが、保護のための活動の結果、最近では、以前よりも姿を見る機会は多くなったのだという。

○明日は、家族みんなで植林ボランティアに出かける日だ。ふくおかの自然は、わたしたちの先祖の生活との関わりの中でその豊かな姿を育んできた。その営みをわたしたちも続けていこう。と私は思った。

